

# 都立大ボラセン

— 都立大から生まれるボランティア活動 —

Vol.6



## 特集1

2023年度「ボランティアプログラム」活動を終了しました

## 特集2

「1DAYボランティア」を実施しました

## 特集3

「大学生ボランティア活動報告会」を実施しました

## 学内団体 News

- ・ 東日本きずなプロジェクト
- ・ ボランティアサークルういんど
- ・ ラグビー部

# 目次

---

## 特集1

2023年度「ボランティアプログラム」活動を修了しました ..... 3

## 特集2

「1DAYボランティア」を実施しました ..... 8

## 特集3

「大学生ボランティア活動報告会」を実施しました ..... 10

## 学内団体 News

東日本きずなプロジェクト ..... 16

ボランティアサークルらういんぐ ..... 17

ラグビー部 ..... 18

# 2023年度 「ボランティアプログラム」活動を修了しました

ボランティアプログラムとは、本学の学生に向けたボランティアセンターオリジナルのボランティア活動です。事前・事後の学習と連動し、ボランティア活動を通じて社会のボランティアリーダーとなり得る人材の育成を推進しています。活動内容の企画や運営は学生を中心に行い、通年活動します。

2023年度は、スポーツボランティアプログラム、地域ボランティアプログラムの2つに取り組み、スポーツボランティアは20名、地域ボランティアプログラムは30名、計50名がプログラムを修了しました。

今号は、2023年度後半の活動の様子を学生の感想と共に振り返ります。

## ■ スポーツボランティアプログラム9回目 ボッチャ体験会（イオンモール多摩平の森）

日時：2023年12月9日（土曜日）

目的：“ボッチャ”をより多くの方に知ってもらい、競技を体験し楽しんでもらう



子どもと一緒に  
来てくれる方が多かった

不特定多数の人が来る場所なので、  
どうルールを説明したりすればよいか  
最初は準備に戸惑った

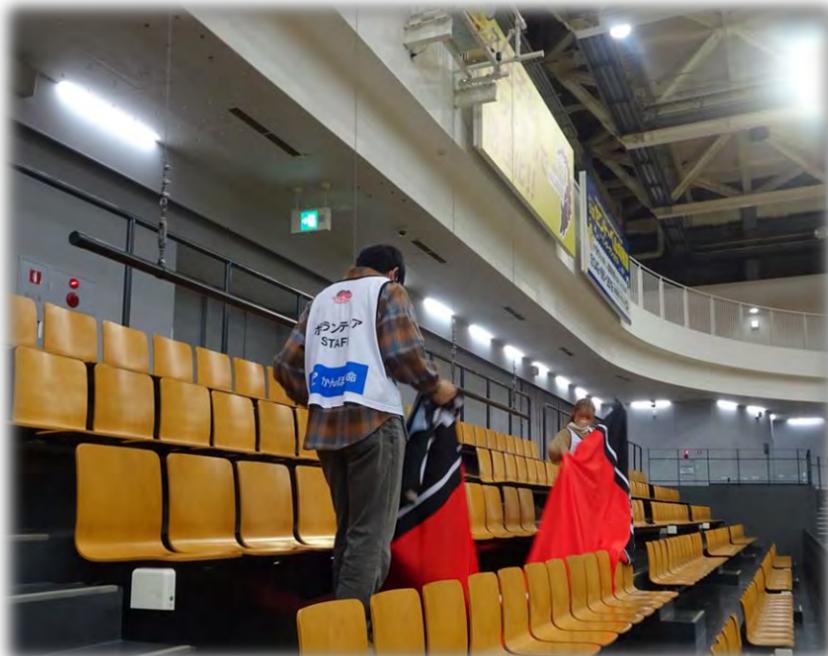
多くの人の目につくところで活動することで、  
通りすがりの人にも興味を持ってもらえた

本イベントは、日野市社会福祉協議会に御協力いただきました。  
ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

■ スポーツボランティアプログラム10回目 東京八王子ビートレインズホームゲーム補助

日時：2024年1月13日（土曜日）

目的：東京八王子ビートレインズのホームゲーム運営補助を行う



忙しい時もお客様に対して笑顔で、丁寧に接客することが出来た。一方で、撤収の際に手持ち無沙汰になることが多かったので、自分からやることを見つけて動けるようにしたいと思った

バスケットが好き身としては、少し大変な活動ではありましたが、とても楽しく、貴重な経験になりました

初めての活動への参加だったが、意外とやることが沢山あって、色々な人に支えられて物事が進んでいるんだなと再確認することが出来た

普段はスポーツする側で大会に参加していたが、裏方として参加することで、色々な人に支えてもらっていることに気づけて良かった

# 2023年度 「ボランティアプログラム」活動を修了しました

## ■ スポーツボランティアプログラム11回目 「バレーボール（精神部門）」大会運営補助

日時：2024年1月31日（水曜日）

目的：東京都障害者スポーツ大会の1つ「バレーボール（精神部門）」の大会運営を補助する



役割分担が明確に決まっていたので活動するのにわかりやすかった。また、気づいたことや疑問に思ったことをすぐに誰かに聞いたというのが良かったと思いました

スポーツの舞台ではどんな障がいを持っていても生き活きと活躍できるという意味で、スポーツの力が偉大だと思いました

## ■ スポーツボランティアプログラム12回目 「車いすバスケットボール」大会運営補助

日時：2024年2月3日（土曜日）

目的：東京都障害者スポーツ大会の1つ「車いすバスケットボール」の大会運営を補助する



試合を長い時間間近で見ることができ、また協会の方やボランティアの方から見るポイント等を教えてもらい、車イスバスケの面白さを知ることができた

いろいろな仕事を体験でき、とてもためになった。団体の方から感謝していただいたのが嬉しかった

■ 地域ボランティアプログラム5・6回目 竹林整備+小学校連携企画の準備・運営

日時：2023年11月18日（土曜日）・11月26日（日曜日）

目的：竹林整備及び小学校連携企画の準備・運営を行う



竹の伐採に限らず、ベンチ作りや切った竹の保存など様々な体験をすることができ、大変有意義な活動となった

竹の伐採についてはまだまだ慣れが必要だと感じたため、今後の活動で練習を積んでいこうと思う

■ 地域ボランティアプログラム7回目 竹林整備

日時：2023年12月2日（土曜日）

目的：竹林整備を実施する



自分で切って、運んで、枝を落とすところまでできてよかった。今回は特に同学年の方たちと交流が深められて良い機会になりました。ありがとうございました！

枯れた竹の脆さに驚きました。特に自分がかもろうとした竹が倒れそうになった時はヒヤッとしました。掴む時は慎重にしたいです



初回の活動だったが、竹の切り方から枯れた竹の伐採の必要性など多岐にわたる知識を身に着けることができた。本プログラムの持つ役割と安全面を十分意識しながら、今後の活動をしていきたい



■ 地域ボランティアプログラム8回目 竹林整備+門松作り

日時：2023年12月16日（土曜日）

目的：竹林整備及び近隣子ども園連携企画として門松作りを行う



今回は伐採するだけでなく門松のためにどの竹が良いか  
 選び、切る作業をしたり、保育園の先生が水の入った  
 竹について園児に見せたいと言っていたのを聞いて、  
 前回よりも竹の利活用や保育園で竹がどのような役割を  
 果たしうるのか具体的に考えることが出来た

保育園の先生に竹をお渡しした際に、  
 この活動が地域に関わりを持っていて  
 ことを改めて実感することができて  
 とても嬉しかった

■ 地域ボランティアプログラム9回目 竹林整備+ロケットストーブを囲んでの座談会

日時：2024年2月11日（日曜日）

目的：竹林整備を実施し、切った竹を利活用したロケットストーブを囲んでメンバー交流を行う



座談会で、道具や食料を持ち  
 合わせたことで、長時間みな  
 さんで協力しながら場が持て  
 たというのが良かった

少しの時間であっても  
 人の手で整備する時間を  
 設ければ  
 里山は安全に管理が出来る



降雪の影響で緑地内のあちこちで倒れか  
 かっている竹が散見されたので、それらを  
 全員で協力しながら処理することができた  
 のは、緑地内を安全に歩けるようにする  
 という成果がすぐ目に見えて達成感があった。  
 竹の利活用としては、コップ作成のみなら  
 ず、竹ご飯を入れる容器をメンバーの様  
 々な意見をもらいながら作ることができ  
 完成できた時は本当に嬉しかった！

## 「1DAYボランティア」を実施しました



「ボランティアに関心はあるけど、一人で始めるのは不安だ」「継続できるか心配なので、まずはお試し体験がしたい」などの学生に応えるべく、ボランティア活動の“はじめての一步”を踏み出しやすくするための「1DAYボランティア」と題した1日体験ボランティアを行うイベントを開催しました。

学生コーディネーターの5名がリーダーとなり、1人1種類ずつ専任リーダーとして5種類の体験ボランティアを用意、ボランティア活動当日は学生コーディネーターと一緒に活動する、というスタイルで実施しました。

学生は、事前学習・事後学習とセットで、自分の選んだ体験ボランティアに参加しました。2023年度は、学生16名、学生コーディネーター5名の計21名での活動となりました。事前・事後学習の様子も含め、参加した学生の意見と共に活動を振り返ります。

### 事前学習

実施日：2023年11月11日（土曜日）

講師：室田信一先生（人文社会学部）、体験ボランティア受入先団体の皆様

内容：ボランティア活動を始めるにあたっての心得を学び、イメージを整頓し多角的に捉え、ボランティア活動の動機を明確にしたり、活動にあたっての目標をたてる

初めてボランティアのイベントに参加することになり、少し不安でしたが、事前学習でボランティアについてよく知ることができ、不安もなくなりました。

様々な理由でボランティアに参加しようと考えている人がいたので、意見交換ができてよかった。

普段、子ども食堂の活動など資料で読むだけになっていることが多いので、今回実際に活動されている方からお話を聞くことができ、大変勉強になった。

本当に正直いって今回の事前学習面倒だなと思っていたが、自分にとってとても学びがあった。当日も楽しみになった。参加してよかった。



### ボランティア活動先

実施日：2023年11月18日（土曜日）～12月9日（土曜日）のうち指定された日

- 1) 八王子市立愛宕小学校（学習支援）
- 2) スープの会（路上生活者支援）
- 3) 荒川区社会福祉協議会フードパントリー（ひとり親家庭／生活支援）
- 4) 東京八王子ビートレイフズ（スポーツ）
- 5) 良い子食堂（子ども食堂）

今回は、上記5団体の皆様に御協力いただきました。

# 「1DAYボランティア」を実施しました

## 事後学習

実施日：2023年12月16日（土曜日）

講師：体験ボランティア受入先団体の皆様

内容：活動を終えての振り返りを実施する

ボランティアをしていると、良い意味で思わない、ただ自分がやりたい・やってみたいという気持ちや実際に参加することで社会問題に気付くきっかけになった。

自分にとっては、かなりエネルギーを消費することなので、まず1度やっただけ個人的にはすごい！1度やってみて（参加の）ハードルは下がったように思う。

「自分が楽しむ」を念頭にもってきてもいいのだな、と感じた。

（ボランティアへの参加は）想像していたより、ラフに参加していいものなのだ、と思いました。人とのつながりを求めて活動を始める人が、思いのほか多いのだな、と感じた。



（学生コーディネーターと一緒に活動した、というのは）「顔を見たことがある、話したことがある人がいる」のとそうでないのとでは、全く違っていたと思う。とても安心できた。

活動に参加した後、想いは色々溢れてもなかなかまとまらなかったのですが、事後学習で対話を通じて自分の言葉にすることができてすごくよかった。

小学校にいられていただく、という経験は中々できないことだと思うので、今回非常に貴重な経験になると共に、今後ボランティアに参加するときに参加しよう、という一歩が踏み出しやすくなったと思う。

初めてで何もわからないオ状態だったが、楽しく活動することができた！

初心者でも受け入れてくれて嬉しかった。



▶ 協力団体の皆様、誠にありがとうございました。参加した学生の皆さん、お疲れさまでした！

# 「大学生ボランティア活動報告会」を実施しました



本センターに登録している学生団体が、その年度のボランティア活動について成果発表を行う、「大学生ボランティア活動報告会」を2023年度も実施しました。

今回のテーマは「~Create~繋がるボランティアの世界」。都立大生が「つくってきた」もの、活動の中で感じた“思い”、成果、未来への展望などを共有し、ボランティア活動の意義や効果を多角的に考えるとともに、まだ活動したことがない学生にむけて、ボランティア活動を身近に感じ、一歩踏み出すことを応援する場として、そして、活動している学生同士や団体同士、学生と協力団体や地域の人々が繋がる機会となるような報告会となりました。全体の様子を写真とともに振り返ります。

## 第1部（各団体の発表） 前半

### 1) ボランティアサークル ういんぐ

地域で自立生活をしている、障害当事者と交流することを目的としたサークルです。障害をもつ方を取り巻く社会問題について考えながら活動を行っています。

当事者を講師にむかえた車いす体験会では、普段の生活からは感じる事ができない段差を乗り越える難しさを感じたり、話す際の目線や視線をどうしたらよいか等、考えることがたくさんありました。

講演会では、施設を利用されていた方や、現在親元から離れて自立生活をしている障害当事者の方に話をきき、現在の生活の様子などを教えてもらいました。これを機に、障害の重さ（重度、軽度等）や、当事者の持つ様々な環境や色々な思いを知ってもらえたらと思います。介護体験では、実際に障害者の方のサポートを行っています。実際に介護をして当事者の方と生活をして初めて知ることも多くあり、お互いに知らないことを知るよい機会だと考えています。また、当事者は一人で何かやろう！と思っても中々一人ですぐに動けないことも多く、コミュニケーションをとりながら、目標に向かって一緒にできるという点はよいなと感じています。

また、外出企画やイベント等を通じて交流を行い、新たな気づきを得ることもあります。



### 2) 東日本きずなプロジェクト

東日本大震災の被災地の「いま」や東北の魅力を知り、学ぶだけでなく、発信することで東北に興味・関心を持ってもらうことを活動目的としています。

2023年度は、宮城や福島、岩手へのツアーを複数回実施やした他、OB/OGの方との交流、学祭への出店や能登半島地震の災害募金活動を行うなど精力的に活動し、「OB/OGとの密なつながり」、「大槌祭りの参加によるつながり」、「定点観測の意義」をつくってきました。

「OB/OGとの密なつながり」は、東日本大震災の記憶がない世代に移り変わる中、当時の活動の様子等OB/OGの方々の話をきける貴重な機会となり、震災の記憶が薄れていく中で、こうした活動は非常に重要であると感じています。



第1部（各団体の発表） 続き

2) 東日本きずなプロジェクト

「大槌祭りの参加によるつながり」は、岩手県大槌町のお祭りにボランティアとして参加し、お祭りの運営に貢献しました。また、震災後初となる神輿の川渡り（大槌川渡御）も行われ、貴重な瞬間に立ち会えました。地元の方とのコミュニケーションが図れた一方で、震災に関する話はできなかつたため、次回の参加時には、震災に関する話を聞く時間を設けてもよいのではないかと感じました。



「定点観測の意義」は、大槌町の様子を長年観測してきたもので、青嶋祭で展示した際には多くの方に興味をもっていただけました。定点観測は過去の先輩方が残してくれた大切な記録であり、東日本きずなプロジェクトの歴史でもあるので、今後も続けていき、より多くの方に変遷を見ていただきたいと思います。

今年度うまくいかなかったこととしては、「学ぶ」機会はたくさんありましたが「発信」の機会が少なかったため、次年度は「発信」により力をいれて活動したいと考えています。

また今後の課題として、「3.11を知らない世代へどう伝えていくか」をテーマにし、震災の記憶がない世代（現大学2年生は震災当時幼稚園年長世代）に対し、OB/OGの記憶や自らが学んだことをつなげていく必要があると考えています。そして、震災後に生まれた子どもたちに対して伝防災知識としてえていく上で、年間を通じて「学ぶ」「考える」「伝える」ができるような運営を行っていきます。

3) 都立大子ども支援サークルC-save

子ども支援に焦点をあてて、荒川地区を中心に活動をしているボランティアサークルです。

家庭や学校に居場所に悩む子どもが多いことから、安心できる居場所づくりを目的に活動しており、教育委員会や行政、社会福祉協議会、30以上の地域団体と構成するあらかわ子ども支援ネットワークにボランティアとして参加する形をとっています。



学習支援やあそび、スポーツの体験活動を実施したり、大豆と一緒に育てて地域の皆さんのところへ持ち寄ったりもしています。

今年は、立ち上げ初年度であることから、メンバーがまだ少なく、地域イベントやネットワークへの参加をしましたが、団体として何を行っているかわかりづらく伝わりづらい、サークル内での情報差異が生じたりなど課題がありました。今後は、地域の団体活動を続け、繋がりが途切れないような仕組みづくりを行いたいと考えています。

4) スポーツボランティアプログラム

ボランティアセンターオリジナルのボランティア活動の1つとして設定されている活動で、スポーツボランティアの理論を学び、スポーツを通じた地域活性化やインクルーシブな社会の実現、スポーツ文化の醸成を目指し活動しています。



第1部（各団体の発表） 続き

4) スポーツボランティアプログラム

2023年度は、日野市社会福祉協議会主催の「みんなとっしょの運動会」や「ボッチャ体験会」、地域の小学校と連携した「都立大生と一緒に！スポーツ体験教室」や東京マラソン2024など、数多くの活動を実施しました。

その中で、視覚障害の方への伝え方（主に距離）が難しかったという反省や、障害の有無に関係なく一緒に楽しめる競技もたくさんあるんだという気づきがあり、よい経験となりました。

また、準備段階から企画運営を行い、参加者に教えることで競技への理解が高まったこと、年齢によってルールを柔軟に変更する必要性を感じ、勉強になりました。

また、小学生にもわかりやすいルール説明や掲示物の作成も行い、楽しめる工夫をこらしました。



今後は、成果の発信や、参加者の声をもっと集め反映したイベントをつくることができるようにしたり、大学祭や他団体との合同企画も考えていきたいと考えています。

5) いきもの！サークル東京

いきもの好きのメンバーが集まった団体に、展示活動を通じて生き物の魅力を発信していくボランティア活動を行っています。キャンパス内にあるビオトープや田んぼの整備を行い、生き物を飛び寄せたり、フィールドワークを企画実施する等しています。ボランティア活動のメインとして、学祭や地域のフェスティバル等で「都立大いきもの園」と題して、生き物に関するパネルや標本を展示し、「生き物の魅力を発信」しています。

苦手とされがちな生き物の印象をかえたい、学術的な内容も交えて幅広い年齢層の方に楽しんでもらいたい、自然と向き合ってくれる人が少しでも増えることを願って活動しています。

展示の工夫として、A2パネル+A4解説パネル+実物展示（ある場合）を組み合わせしており、美しさや多様性を伝えるようにしています。

小さい子も含め、実物展示があるとよい反応があること、今まで知らなかった！という驚くの声もいただきます。多くの方が抱いている苦手意識は先入観であることが多いということもわかってきました。

今年度の展示では、SNSの発信が大きな宣伝となり、展示風景や販売グッズをみて足を運んでくれた人も多かった、という成果がありました。

今後も、展示への工夫を常に追求し、より楽しめるような展示をしたいと考えています。



6) 地域ボランティアプログラム

ボランティアセンターオリジナルのボランティア活動の1つとして設定されている活動で南大沢キャンパスの松木日向緑地をフィールドに、里山保全や技術・文化の伝承、地域コミュニティの活性化や認知度向上を目的に、地域と緑地の交流を踏まえて活動しています。



第1部（各団体の発表） 続き

6) 地域ボランティアプログラム

今年度は新規メンバーを25名迎え、過年度からのメンバー9名と共に、竹を切る技術の伝承を大切に考え活動しました。竹の伐採は刃物を使い、足場が斜面なので危険も伴うことから、安全第一に考え、プレミアムカレッジ生も含め幅広い年齢層の方と活動を行いました。

繋がりが生まれるように、竹の伐採だけでなく利活用を考えて、作ったものを使って竹ご飯を炊くなどメンバー同士の座談会を行ったり、学祭での体験・展示を行い、子どもたちが多く来場してくれた、という嬉しいこともありました。

今後は、学外・学内の交流を継続的にできるかどうか、発信の仕方の工夫を検討したいと考えています。また、行った活動が目的を果たせていたか振り返り、人とのつながりの輪を広げ、緑地の魅力を再発見してもらい、多様な活動によって緑地自体への関心を増加させられる活動ができるよう考えていきたいと思ひます。



7) 児童文化研究会

人形劇で子どもたちを楽しませるボランティア活動を行うサークルで、来年で70周年を迎える歴史ある団体です。

1年生にとっては初めての公演を行い、一人1体人形を作って参加し、先輩たちから色々と教わります。

夏公演では、「都立大子どもまつり」を始めて実施。他団体さんにも声をかけブースを出店、400人以上の子どもたちが来てくれました。

川崎人形劇祭りなどの外部のお祭りにも参加、大学祭公演では過去最高の集客となり、3日間で6公演を実施、多い時には1公演で250人以上の参加がありました。広報の成果がでたと思ひます。

人形劇公演だけでなく、南大沢駅前での子ども向けイベントへ参加、折り紙の折り方のレクチャー等も実施しました。

今年度は、コロナの制限がなくなり、たくさんの新しいことにチャレンジすることができました。まだまだ見通しの甘い部分もありますが、今後も引き続き子どもたちに楽しんでもらえるよう取り組んでいきます。



8) 学生コーディネーター

ボランティアセンターに所属する学生として、学生の立場からボランティア活動の紹介や、きっかけづくり、地域と学生をつなぎボランティア活動の機運を高めるため活動しています。

2023年度は、南大沢夏まつりに初めて参画し、学生コーディネーターを中心に学内でのボランティアを募集し都立大夏まつりチームを結成、2か月半ほどの準備期間を経てブースを出店、当日は200名以上の子どもたちが来てくれました。御神輿のサポートやアナウンス等当日の運営にも携わり、地域と学生をつなぐ素敵な交流の機会となりました。

また、青鳩祭への出展や、1DAYボランティアを企画実施し、学生や地域の方とつながる機会を設けることができました。今後、都立大生への周知や広報を強化し、ボラセンを介した地域・学生とつながる機会を創出していきます。



第2部（パネルトーク） 前半



前半のパネルトークは以下の団体が参加しました。

- いきもの！サークル東京
  - 東日本きずなプロジェクト
  - スポーツボランティアプログラム
  - 都立大子ども支援サークルC-save
  - ☆ ファシリテーター 明石京花（学生コーディネーター）
- パネルトークの内容を抜粋しました。

Q：今年度（2023年度）の活動で一番印象に残ったこと・Createしたものはなんですか？

●スポーツボランティアプログラム

自主企画として、学生のみで企画や準備したイベントを1から作りあげ、当日多くの方に参加いただけたこと、参加者に「楽しい！」といってもらえたことがすごく印象に残っています。

●東日本きずなプロジェクト

「OB/OGとの密なつながり」を対面で行えたこと。当時の状況であったり、今後の展望や企画を考えたりと、仲を深めることができたのがよかったです。

●いきもの！サークル東京

展示活動に力をいれているが、新しい展示方法を創れたこと（標本枠の中に紙を入れて、標本と一緒に展示する）。また、合宿も昨年度に続き年2回再開できました。

●都立大子ども支援サークルC-save

サークル設立をしたこと。そして荒川地区の団体との関係づくりや、子どもたちと触れ合うに当たっての注意事項等サークル全体として活動するための準備を数多く行いました。

Q：来年度やってみたいことはありますか？

●スポーツボランティアプログラム

自分たちの学びの場を増やしたいと思います。競技の知識を増やすことや、障害を持つ方への接し方など、学んでいけたらと思っています。

●東日本きずなプロジェクト

「発信」に力を入れたいと考えており、まずは学生天国（2024年5月12日開催）での出展で、学んだことを発信したいと考えています。また、今年企画倒れしたもののへの再挑戦も考えています。

●いきもの！サークル東京

展示活動は継続していきたいと考えています。また、今年度から部室をいただいたので、部員同士の交流を深めていきたいと思っています。

●都立大子ども支援サークルC-save

個人活動が多かったので、サークルメンバーとの交流を行い、情報のすり合わせを行いたいと思っています。また青鳩祭での出展など検討できたらいいかなと考えています。



第2部（パネルトーク） 後半



後半のパネルトークは以下の団体が参加しました。

- 地域ボランティアプログラム
  - 児童文化研究会
  - ボランティアサークルういんぐ
  - 学生コーディネーター
  - ☆ ファシリテーター 山崎航輝（学生コーディネーター）
- パネルトークの内容を抜粋しました。

Q：今年度（2023年度）の活動でできたことはなんですか？

●児童文化研究会

子どもたちとのつながりが深くなったことです。子ども祭りの実施で、人形劇を初めてみてくれた子が沢山おり、互いの表情がみえたことで楽しんでくれていると伝わってきましたし、学祭の公演で再び来てくれたこともあり、リピーターが増えたかなと思います。

●地域ボランティアプログラム

外部との交流ができたことと、発信の場を設けられたことです。小学生交流体験教室や保育園との連携企画の実施や、学祭への出展で、子どもたちと交流ができたことが大きいと思います。

●ボランティアサークルういんぐ

学祭に初めて出展できたことです。車いす体験を行いました。思った以上に年齢を問わず親子連れから年配の方々まで多くの方に興味を持っていただけたことがよかったです。

●学生コーディネーター

南大沢夏まつりに参加したこと、1DAYボランティアの開催など、「初めて」関わる地域の方との交流や、「初めて」ボランティアを行う人へのアプローチを考えるといった点で、新たな実践ができたかなと思います。

Q：今年度感じた「つながり」は何ですか？

●児童文化研究会

都立大子ども祭りを初めて実施したことで、学内の他団体さんとのつながりができたこと、また、外部の方から声をかけていただき、新たな出演依頼やボランティア活動の話をいただいたので、新しいことを実施して新しいつながりができたことがいい循環になったと思います。

●地域ボランティアプログラム

学祭にて、昨年度地域ボランティアプログラムに参加していた卒業生の方から声をかけていただいたのですが、元々もっているつながりを大事にすることも必要だなと感じました。

●ボランティアサークルういんぐ

様々な障害の方と話をしたり交流ができました。障害や苦手なことがあっても、自分がやりたいことを断念する理由にはならないんだな、と感じましたし、周囲でつながる支えてくださる方から沢山勇気や元気をもらえました。

●学生コーディネーター

南大沢夏まつりや1DAYボランティアの開催にあたり、「地域」とつながったと感じています。初めてボランティアに参加する学生と一緒に地域で活動していく中で「楽しかった」と言ってもらえたのは嬉しかったですし、新たなつながりになったな、と感じています。

▶ ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。参加した学生の皆さん、お疲れさまでした！



## 東日本きずなプロジェクト

今回は、2024年5月12日（日曜日）に開催された「学生天国」に初参加した際の感想と出展ブースの様子をお届けします。

※ 学生天国とは、八王子学生委員会が主催する学生と市民向けの交流イベントです。

### 1 学生天国に参加しようと思った理由を教えてください。

昨年の八王子未来カンファレンスというイベントに参加した際に八王子学生委員の方から声をかけていただいたのがきっかけです。今まで学生天国の存在を知らなかったのですが、詳細をお聞きして今年度は周りへの発信により力を入れていきたいという団体内の課題もあり、とても良い機会だと捉え今回の参加にいたりしました。

### 2 学生天国で実施したことは何ですか？

学生天国では当団体の紹介と活動拠点である岩手県大槌町の魅力を紹介したポスターの掲示、当団体でスタディツアーごとに作成しているきずな新聞の配布、そして私たちが定点観測している大槌町の復興の変遷を捉えたものを写真で展示しました。

### 3 参加してみての感想をお願いします。

きずなとして初めての参加だったのですが沢山の方に来ていただいて、学生天国というイベントのパワーをすごく感じました。特に定点観測の展示に多くの人から興味を持っていただき大変嬉しく思いました。活動に対するお褒めの言葉をいただいたり、見に来てくれた方と1時間近く震災について語り合ったりとかなり充実していたのではないかなと思います。また他大学との交流も沢山生まれたことも、よかったことのひとつだと感じています。是非来年も参加したいと感じました！

その1

## Activity Gallery





## ボランティアサークル ういんぐ

今回は、2024年5月12日（日曜日）に開催された「学生天国」に初参加した際の感想と出展ブースの様子をお届けします。

※ 学生天国とは、八王子学生委員会が主催する学生と市民向けの交流イベントです。

### 1 学生天国に参加しようと思った理由を教えてください。

学生天国に参加しようと思った経緯は、都立大の方で有志で行われた「八王子未来カンファレンス」というイベントで学生天国委員の学生と知り合い、活動の場を広げるために参加しました。

### 2 学生天国で実施したことは何ですか？

当日は、活動紹介の展示と車いす体験・嚥下障害をもっている方が普段食事や水分補給で利用しているトロミ飲料の試飲を行い、しょうがい当事者の立場にすこしでも立ってもらえるような体験を用意しました。

### 3 参加してみての感想をお願いします。

当日は、こどもから大人まで幅広い年齢層の方々に体験をしてもらうことができ、とても有意義な時間になりました。とくに車いす体験に興味津々なこどもたちが多く、夢中になってずっと乗っている子もいました。

幼い頃から車いすを利用する経験してもらえたことは嬉しく思いますし、未来を担うこどもたちに体験を通して障害の問題について考えるきっかけを与えることができているといいなと思います。

その2

## Activity Gallery





## 体育会 ラグビー部

今回は、2024年6月8日（土曜日）に、八王子市の光明第八こども園で行われたラグビー指導のボランティア活動に参加した様子を振り返ります。当日は子どもたちも大変楽しんでいる様子が伺えました。

### 1 ラグビー指導ボランティアで一番「心が動いた」場面を教えてください。

保育園でラグビー指導ボランティアを行った際、子どもたちが初めてラグビーボールを手にした瞬間に心が動かされました。その小さな手でボールをしっかりと握り、一生懸命に走り回る姿を見ると、スポーツが持つ力の素晴らしさを感じました。特に、最初はボールに触ることを躊躇していた子どもが、自分のペースで少しずつ慣れていき、最終的には笑顔でトライを取る姿を見て感動しました。子どもたちが楽しみながら新しいことに挑戦する姿を見守ることができたこの時間は、私にとって非常に意義深いものでした。

### 2 ラグビー指導ボランティアで苦労したことは何ですか？

保育園でのボランティアでは、以下のような苦労がありました。まず、子どもたちの注意を引き続けることが難しい点です。子どもたちは集中力が短く、すぐに他のことに気を取られます。そのため何度も声を出して注意を引く必要がありました。また、言葉の理解やコミュニケーションが完全でないため、指示を理解させるのが困難でした。さらに、安全管理にも細心の注意が必要でした。特にラグビーというスポーツは危険を伴うものなので子ども達の安全の配慮に気をつけました。

### 3 ラグビー部にとって、ボランティアとはなんでしょうか？

ラグビー部にとって、保育園ボランティアは地域とのつながりを深め、社会貢献の意識を高める貴重な機会です。地域の子供たちと触れ合い、ラグビーの楽しさを伝えることで、クラブの活動を広めるだけでなく、地域社会との強固な関係を築くことができます。ボランティア活動を通じて、部員たちは地域の一員としての責任を自覚し、社会への貢献を実感することができます。保育園ボランティアはラグビー部にとって、地域との絆を深め、社会貢献の意識を育む重要な活動であると考えています。

### 4 ラグビー部のPRをお願いします！

私たちラグビー部は「人として成長し愛されるチーム」を目指す姿とし日々活動しています。その実現のため、保育園でのラグビー教室やボランティア活動を行い地域の方々と交流を深めています。また私達は部活動としても高い目標を設定し、日々活動しており、チームの特徴としては部員同士の仲が良く、風通しが良いところです。現在部員、マネージャー共に大募集しているので、気になる方はお気軽にご連絡下さい！

#### ▼連絡先

〈X〉 [@tmurugby](#)

〈Instagram〉 <https://www.instagram.com/tmu.rugby/>

〈YouTube〉 東京都立大学 ラグビー部-YOUTUBE

<https://www.youtube.com/@user-ji7st7si5f>



## Activity Gallery



## 体育会 ラグビー部

今回は、2024年6月8日（土曜日）に、八王子市の光明第八こども園で行われたラグビー指導ボランティア活動に参加した様子をご紹介します。子どもたちの笑顔がたくさん見られました。



# ボランティアセンターからのお知らせ

## 1 「第39回南大沢夏まつり」に参画します！是非お越しください！

2024年7月27日（土曜日）に、大平公園広場で開催される「第39回南大沢夏まつり」に、ボランティアセンターの学生コーディネーターが中心となってボランティアを行う都立大チームが参画します。当日は、企画ブースを出展し、お子様をはじめとする地域の方にお楽しみいただける内容となっています。皆様、是非お越しください！会場でお待ちしています！

### ▶ 南大沢夏まつりのご案内

【日時】7月27日（土）16:00～ ※雨天時は28日（日）に延期  
【場所】大平公園（八王子市南大沢3-1-1） 南大沢駅より徒歩15分



## 2 「学生の声」好評配信中！是非ご覧ください！

ボランティアセンターのWEBサイトでは、ボランティアを通じて活躍する学生の声をお届けしています。学生コーディネーターや、スポーツボランティアプログラム・地域ボランティアプログラムの参加者、ボランティアセンターに登録のある学内団体の学生や、ボランティアセンターを通じてボランティアに参加した学生等、様々な形でボランティアにたずさわる学生が、どのような思いや理念をもって活動しているかお伝えします。毎月1度更新予定です。下記URLからご覧ください。

▶ [https://volunteer.tmu.ac.jp/news\\_pr/volunteervoice/](https://volunteer.tmu.ac.jp/news_pr/volunteervoice/)

## 3 ボランティアの相談はフォーム予約を活用ください！

ボランティアセンターでは、ボランティアに関する相談をお受けしています。どんなボランティアがあるの？ボランティアってどうやって始めたらいい？といった学生からの相談や、学生のボランティアを募集したい、といった地域の方のご相談も可能です。下記URLからご予約ください。

▶ 【都立大生向け】<https://forms.office.com/r/LAiQFW2aAL>

▶ 【地域の方向け】<https://forms.office.com/r/ke1QMnYnAb>

## 表紙の写真

左上：大学生ボランティア活動報告会  
参加した学内団体の皆さん



右上：地域ボランティアプログラム  
竹コップでスープを味わう



左下：東日本きずなプロジェクト  
「学生天国」



右下：ラグビー部  
「保育園でのラグビー指導」



東京都立大学ボランティアセンター Newsletter  
「都立大ボラセン」Vol.6

発行元：東京都立大学ボランティアセンター  
発行日：2024年7月26日（金）

所在地：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
Tel：042-677-1354  
Mail：tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp  
WEB：https://volunteer.tmu.ac.jp/  
X（旧twitter）：@tmu\_volunteer

東京都立大学  
ボランティアセンターの  
最新情報は  
こちらのQRコードから  
check！

X（旧twitter）



公式WEBサイト

